

## SPECIFICATIONS FOR ALPINE COMPETITION EQUIPMENT (競技用品ルール; FIS ウェブサイト 2021年7月18日公開版) における変更点について

FIS ルールの変更に伴い、SAJ ルールも変更とする。一部を抜粋して紹介する。  
詳細は SPECIFICATIONS FOR ALPINE COMPETITION EQUIPMENT を参照のこと。

### B. Alpine Competition Equipment

#### 2 Tolerances for measurements of alpine competition equipment

##### 2.1 Functional ski system/Ski boots/ Protectors

##### 2.1.1 Tolerance values

Thickness of ski boot soles (tB) **0.5mm**

### 参考：日本語訳

#### B. アルペン競技用品

##### 2 アルペン競技用品測定時の公差

##### 2.1 機能としてのスキーシステム/スキーブーツ/プロテクター

##### 2.1.1 公差

ブーツソールの厚さ **0.5mm**

### 補足解説

改定前は許容値を含めた測定値として 45mm (43mm+2mm) が上限値であった。  
改定後は許容値を含めた測定値として 43.5mm (43mm+0.5mm)が上限値となった。

## 2020/21 シーズン スキー用具に係る国内運用規定について

FIS 関連規定に関しては、[SPECIFICATIONS FOR ALPINE COMPETITION EQUIPMENT](#) を参照している。スキー用具に関する規定は、ここに記載があるため、疑義が生じた場合は必ず目を通すこと。なお訳文と原文とに相違がある場合は、原文を優先する。

特に記載のないものは FIS 規定に準拠するものとする。SAJ 特別規定については別途記載する。この共通事項と各年代別のものを両方参照すること。

## 用具について (抜粋)

## 1. スキー板について

各年代別のページを参照すること。なお購入の際には販売店と相談をし、年代別 FIS 規定に適合したものを購入すること。

## 2. ビンディングについて

プレート類を取り付ける際、スキー滑走面からブーツソールまでの高さは最大 50mm とする。

## 3. スキー靴について

ブーツソールから踵の下まで、すべての部品を含めた厚みは最大 43mm とする。

U14 と U16 においてはスキーの高さとブーツの厚みを同じにすることを推奨する。

## 4. スキー一式、ブーツ、バックプロテクターにおける公差

## 2.1.1.公差 (一部抜粋)

| 項目                       | 公差    |
|--------------------------|-------|
| スキー滑走面からブーツソールまでの高さ (踵部) | 0.1mm |
| スキー長                     | 10mm  |
| スキー幅 (最小値)               | 0.1mm |
| スキー前部の幅 (最大値)            | 0.1mm |
| スキー靴ソール部厚み               | 2mm   |
| バックプロテクターの厚さ             | 1mm   |

## 5. レーシングスーツについて

SL を除くすべての FIS および SAJ レースで使用されるレーシングスーツは、FIS 規定の空気透過率基準をクリアしなければならない。

## ※SAJ 特別規定

K2 公認大会においては、FIS 規定レーシングスーツの着用を免除する。

2021/2022 シーズンより、K2 公認大会を除くすべての SAJ 公認大会において、FIS ラベルのあるレーシングスーツを着用すること。

## 6. ヘルメットについて

全ての FIS および SAJ 公認大会では、新規格対応表示（FIS ステッカー[RH2013]）が明示されているヘルメットの着用を義務とし、DH、SG、GS 競技に適用される。メーカー公式付属品以外の装着は禁止とする。

SL では、ヘルメットの耳部分のソフトパッドの使用を認めるが、EN1077 または ASTM2040 認証が必須である。

### ※SAJ 特別規定

SL の FIS 規定については推奨とする。

ナショナルエンブレムの貼付はナショナルチーム及び日本代表チームとして海外で競技に参加する場合は必須とする。ただしナショナルエンブレムを貼付せず、ヘッドスポンサーステッカーを貼付する場合は、前面におおよそ高さ 5cm のスペースを空けること。

## 7. バックプロテクターについて

U16 以下はバックプロテクターの使用を推奨する。

## 8. フッ素化ワックスの使用禁止について

2021/2022 シーズンより使用を禁止する。2020/2021 シーズンにおいて検査は実施しないものの、是非とも自然環境や人体へ悪影響をもたらすフッ素化ワックスの使用を今シーズンから改めて頂きたい。

スキー、スノーボードは自然環境の中で行うスポーツであり環境への配慮と、多くのスノースポーツ愛好者やアスリートの健康を考えたルールである。